

「開聞小学校・川尻小学校・開聞中学校の三校合同による 郷土芸能体験学習の取組」

1 学校名

指宿市立開聞小学校・指宿市立川尻小学校・指宿市立開聞中学校

2 学年・人数

開聞小学校 5～6年生 44人

川尻小学校 5～6年生 13人

開聞中学校 1年生 32人

3 日時・場所

(1) 日時

令和5年11月15日(水) 10:00～12:00

(2) 場所

開聞総合体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

- 上野猿の子踊り(上野区)
- 脇浦古琴節(十町区)
- 川尻民謡(川尻区)
- 開聞龍宮太鼓(十町区)
- 入野物袋琉球人踊り(十町区)
- 川尻棒踊り(川尻区)

(2) 由来

上野猿の子踊り

鍋島岳の山中に「塩手どん」という社が祀られ、多くの猿たちが仕え、川尻海岸まで塩汲みに行っていたが、団子の匂いに釣られて騒ぐ猿たちに困った村人たちが武士に頼んで猿たちを追い払ってもらったが、その際、団子を褒美に猿たちに芸をさせたことを踊りにしたものの。

開聞龍宮太鼓

昭和55年の全国的なまちおこしの流れの中で、青年団が「開聞太鼓同好会」として和太鼓に取り組んだのがはじまりである。

脇浦古琴節

由来は分からないが、脇浦集落に古来より伝わり、歌詞の内容から「瘡踊り」に似ているとされている。

入野物袋琉球人踊り

琉球使節団が薩摩に上る際に薩摩までの往来の情景を唄に合わせて踊ったものが琉球人踊りだが、それを酒席で見よう見まねで踊ったのがはじまりとされている。

川尻民謡

田植え前後の豊作祈願であったらしいが、その後、神社の祭りや諸行事で踊られるようになった。

川尻棒踊り

田歌や示現流棒術から生まれた鹿児島独自の芸能であり、島津忠良が庶民の忠誠心を培うために踊らせたものとされている。

(3) 構成等

○ 上野猿の子踊り

子どもたちが親猿，二才猿，子猿に扮し，サスケ（猿使い）の下知（命令）に従って，笛，太鼓，鉦の音色に合わせて面白おかしく飛び跳ねたり，芸をしたりするのが可愛らしい踊りである。

○ 開聞龍宮太鼓

長胴太鼓と締太鼓で構成され，地元の伝説や神話をモチーフとした創作曲を演奏しており，曲の流れや雰囲気に合わせて振り付けが魅力である。

○ 脇浦古琴節

踊り手は，ととさま，かかさま，子ども，箱持ち，槍持ち，笠持ちのそれぞれの役に扮し，ととさまによる口上や，唄に合わせて槍や笠を突き出すポーズが特徴的である。

○ 入野物袋琉球人踊り

踊り手は唄と太鼓に合わせた独特な手や足の動作が特徴である。また，竹製の鳴り物を手に持って踊る。四つ竹節での並列から円形への流れるような隊列の変化も見どころである。

○ 川尻民謡

川尻には「川尻剣舞」という郷土芸能があるが，その唄である「福島中佐」を楽器や唄に合わせて大漁節として踊るもの。

○ 川尻棒踊り

六尺棒と三尺棒を持った6人が1組となり，前後左右に入れ替わりながら，棒を打ち合う。衣装に紅白色のたすきをかけ，テンポの早い立ち回りは活気に溢れる。また，棒踊りと鎌踊りの独立した2部構成も特徴である。

5 保存会や地域との連携の具体

いぶすき地域学校協働活動進めている。

6 文化財伝承・活用の取組で工夫した点

いぶ好き「ふるさと学」の一環で，小中一貫教育として平成30年から郷土芸能体験を実施している。保存会の方を招き由来を聞いた後，体験したい郷土芸能ごとに班分けして道具の使い方や踊りの練習をすることで郷土芸能を学べるように配慮した。練習後は，発表を行った。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童・生徒】

- ・ 色々な踊りが学べて良かった。
- ・ 棒踊りは動きが難しかったけど楽しかった。
- ・ 色々な動きを丁寧に教えてもらって楽しかった。またやってみたい。

【教職員】

- ・ 子どもたちが生活する開聞地域には、優れた伝統文化が多数存在しており、その伝統文化を中心に豊かなコミュニティも育まれています。そして、それらは地域を愛する方々によってしっかりと受け継がれていることを知り、今まで以上に子どもたちも郷土に誇りを持てたのではないかと思います。

【保存会から】

- ・ 近年、子どもたちも少なくなり猿の子踊りでは練習もままならない。そのため、こういう機会を生かして学んでもらい、興味を持ってもらえると嬉しい。
- ・ これを契機として「もっとやってみたい」という気持ちになり、大人になって保存会に入り、受け継がれることで保存継承に繋がってほしい。